

草のみどり

Kusa no Midori



特集

司法試験合格祝賀会
国家公務員採用総合職試験合格祝賀会

FRONT LINE 理工学部

学部×茗荷谷キャンパス
充実した環境で学ぶ新しいキャンパスライフ

世界を人に動かす Vol. 23

企業経営とグローバル経済の先端知識、優れたコミュニケーション能力を養うべく、国際経営学部生は前進を続けています。

SATO
KARIN



学生ならではの視点から 広報活動を続ける理由

国際経営学部国際経営学科2年 / 東京都立白鷺高等学校出身

佐藤 花梨

国際経営学部に入學してから約1年半が経ち、私はこの学部への進學を決意した自分を誇りに思っています。ここでは、私がそう感じている理由を、国際経営学部で得た学びとともにご紹介します。

国際経営学部を選んだ理由

まずは、私が国際経営学部への入學を希望する決め手となった二つの点についてお話しします。

一つ目はほとんどの授業が英語で開講されている点です。私は高校時代オーストラリアに留學していた経験があり、留學で培った英語力の維持向上のため、英語で授業を受けられるという点を重視して志望校選びをしていました。中央大学国際経営学部では7割以上の授業が英語で開講されていることを知り、「英語を学ぶ」のではなく「英語で学ぶ」という学部の特色に心惹かれました。また、経営学を中心に幅広い分野の學問を学ぶことができる点も魅力的でした。

二つ目は学生が主体となって学部を創っていき雰囲気です。学部パンフレットに「実践的に学ぶ場が多く、学生の挑戦を支援してくれる学部」と学部生のコメントが掲載されていたのが印象的でした。私が受験した当時、国際経営学部は開設3年目でしたが、既にさまざまな学生団体が発足しており、学生が主体となって学部を創り上げているムードを感じました。また、進學を決意した後も、学部の雰囲気を知る手段として、学生団体がとても心強い存在だったことを覚えています。

広報活動において 大事にしていること

私は国際経営学部への入學後、今度は学部について情報発信する側になりたいという思いから、学部広報団体MANNAに所属しました。MANNAはSNSやウェブサイトを通して、受験生へ向けて情報発信を行っており、現在私は団体の代表として広報活動に励んでいます。1

年生の頃はLINEクラスのメンバーとして学生生活や施設紹介などの動画を投稿したり、視聴者への質疑応答ライブを配信したりしました。私が情報発信の際に大事しているのは、常に視聴者が何を求めているのかを考えることです。不特定多数の視聴者に情報を発信できるTikTokでは、まずは視聴者の興味を引くことが大事なので、常にトレンドを押さえて流行りの音源を使用したり、質疑応答ライブで頻繁にいただく質問を動画にまとめたりと、興味を持ってもらうためにはどのようなアプローチが必要なのかを分析しながら情報発信をしました。

イベント運営を通して 得られた学び

MANNAではイベント運営にも力を入れており、ここでは私が参加した二つのイベントについてご紹介いたします。一つ目は、昨年度末に開催した高校生大学生協働ワークショップです。これは



1 高校生大学生協働ワークショップ 2 ワークショップ中の様子 3 オープンキャンパス(MANA メンバー)

広報団体
MANA
Web サイト



高校生に国際経営学部での学びを体験してもらうために開催したイベントで、ファシリテーターの大学生1名が高校生5、6名とグループを組み、2日間でテーマに沿ったアイデアをプレゼンするというものです。私は副リーダーとして、このイベントの企画・準備・運営に携わりました。イベントを一から運営するのはMANAとしても初めての試みであり不安な気持ちが大きかったのですが、教授や事務室の方々、MANAをはじめとする学生団体のメンバーなど、多くの方にご協力いただき、大盛況のうちに終えることができました。

二つ目は夏のオープンキャンパスです。昨年度に引き続き、今年度も学部紹介の企画・運営を任せていただき、私たちMANAは「就職活動」「ゼミ活動」「大学入試体験記」に焦点を当てて、3つの企画を担当しました。今年度は人数制限なしでの開催となったため、より多くの方々に国際経営学部の魅力を発信できたのではないかと思います。

私がこれらのイベントを通して学んだことは、開催後に振り返りをする事の重要さです。先述した二つのイベントは、企画や運営に携わってくださった方々の支えのおかげで、無事に成功させることができました。しかしイベント開催は「国

国際経営学部だより

同じ釜の飯を食う

「先生、全員で行きたいです！」その一言が、長いコロナ禍からのウェイクアップコールでした。7月に徳島文理大学で開催される女性活躍推進をテーマとした学生主催シンポジウムへの招待状が届いた時のことです。シンポジウム参加者を、1、2名選ぶように3年ゼミ生に指示をしました。学生たちの話し合いの結果が、冒頭の一言だったのです。

この3年間、授業はオンラインでできるようになりました、コンパや合宿がなくても学生たちはSNSを駆使して上手にコミュニケーションを取っています。私もすっかりそれに慣れてしまって、特段何かをしなくてもいいように思っていました。違う！ そうじゃない、ゼミなんだから「同じ釜の飯」を食わなくちゃ！ そうして、夜行バス車中泊を含む3泊4日の徳島合宿が計画されました。シンポジウムでの報告に加えて、徳島文理大学との交流会、お遍路ウォーク、大鳴門橋と渦潮見学、阿波踊り体験と内容は盛りだくさん。東京に戻ってからのゼミ生の結束、グループ研究の進捗には目を見張るものがあり、「同じ釜の



瀬戸内海を背にして みんなで踊る阿呆に

飯を食った効果」を実感しています。

4年生ゼミでも卒業論文中間報告と地域活性NPO訪問を目的として、8月に伊豆合宿を行いました。折しも花火大会があり、3年ぶりに夜空に打ち上がった花火をみんなで見上げることができました。教えたことは全部忘れてしまってもいい、この夜空をいつか思い出してくれたらいい、卒業後もお互いの存在が励ましとなるようなゼミ仲間であってほしいと願う夜でした。

国際経営学部では、ゼミ活動を支援するため「実態調査」に対して、学生一人あたり交通費2万円(海外4万円)、宿泊費3千円/泊(3泊まで)が補助されます。そのほかにも、グローバルスタディーズ(短期留学)、フィールドスタディーズ、国内外インターンシップ等、さまざまなプログラムで知識、体験、そして仲間づくりを応援しています。

きむら ゆり
国際経営学部教授 木村 有里

「国際経営学部の魅力を発信する」手段の一つにすぎません。開催したことで満足せず、参加者からのアンケート結果をもとに客観的な意見を取り入れ、今後より良いイベント運営に繋げることが重要であると感じました。

高校時代の私は、広報団体で代表を務

めさせていただくことなど想像もしていませんでしたが、学生が主体となって学部を創っていく雰囲気のおかげで多くのことに挑戦でき、この学部を選んでよかったと常々感じています。これからも学生ならではの視点から学部の魅力を発信し続けていきたいと思っています。